

北海道考古学会だより

第 105 号

2013. 2. 27

目 次

2013年度総会・研究大会の開催について	1
2013年度総会について	1
学会運営委員の改選－委員の推薦について－	1
監査委員の改選－監査委員の推薦について－	3
会誌編集委員の改選－編集委員の推薦について－	3
2013年度研究大会「先史時代の植物利用戦略－栽培植物から見た考古学研究－」	4
2012年度遺跡調査報告会の実施報告	4
2012年度月例研究会の開催報告	5
北海道考古学会の歩み（5）－北海道考古学会創立の頃の思い出（その1）	5
事務連絡	8
入退会者のお知らせ	8
会費納入のお願い	8
その他	8

2013年度北海道考古学会総会・研究大会の開催について

2013年度総会について

2013年度総会を研究大会の昼食休憩後に同一会場にて開催します。総会は会員が会の運営に直接参加する重要な機会であり、また今回は運営委員の改選期にあたりますので、多くの会員の出席を期待します。なお、やむをえず欠席される予定の会員は、4月11日（木）（事務局必着）までに必ず委任状を提出されるようお願い致します。

日時：2013年5月11日（土） 12：45～13：30

会場：北海道大学学術交流会館講堂（札幌市北区北8条西5丁目）

学会運営委員の改選－委員の推薦について－

北海道考古学会会則第6条、委員および委員会規則第2条、および委員会公募細則に基づき、2013年度から2014年度の北海道考古学会運営委員を下記のとおり推薦願います。

規則第5条および第6条の規定により、地域委員10名、運営委員16名以内が会員の推薦を受け、総会で選出されます。ただし、地域委員は事務局所在地区、および近隣地域からは選出されません。会員は、5名までの会員を運営委員として、所属する地区より1名を地域委員として、同封の葉書または同様式に準じた封書にて事務局まで推薦ください。

なお委員選任に関する規則を下記に抜粋掲載します。詳しくは2007年11月発行の名簿をご参照ください。

会則 （関係部分）

第6条 本会に次の役員をおきます。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 1名
- (3) 地域委員 10名以内
- (4) 運営委員 16名以内
- (5) 監査委員 2名

2 地域・運営・監査委員は、会員の推薦を得て総会で選出し、正副会長は委員の互選により決定します。

- 3 会長は本会を代表し、副会長は会長を補佐します。地域委員は地域を代表し運営委員は本会の運営実務を担当し、監査委員は本会の会計を監査し総会に報告します。
- 4 委員の任期は1期、2ヶ年とします。ただし、2期、4ヶ年までの継続再任が出来ます。

北海道考古学会委員公募細則

(目的)

第1条 この細則は、北海道考古学会規則第1号「委員及び委員会規則」(以下、規則という。)第2条で規定する委員の選出方法について定めることを目的とする。

第2条 委員は会員の推薦により委員会が候補者を選定し、総会で決定する。

(推薦)

第3条 会員は、「地域委員」を規則第4条別表1の所属する地域に限り、その所属する地域の会員の中から1名を推薦できる。また「運営委員」を会員の中から5名を限度に推薦できる。

(推薦様式)

第4条 会員からの推薦は、様式1にて行う。封書、葉書およびFAXにて受け付ける。

(委員選出)

第5条 委員選出の手続きは次のように行う。

- 1) 公 示 文書、だより等で総会の2ヶ月以上前に。
- 2) 受 付 総会の2ヶ月前から1ヶ月前まで事務局で。
- 3) 集計審査 受付終了直後、事務局で。
- 4) 候補者選定 (委員会決定) 総会直近の委員会で。
- 5) 候補者公開 総会開催日までに。
- 6) 委員選出 総会議決。

(候補者選定)

第6条 会員推薦に基づき委員会での候補者選定は次のように行う。

- 1) 地域委員

イ 審 査	被推薦者が会員で所屬地域居住者であること。委員辞任後、2ヶ年以上経過した会員であること。
ロ 集 計	地域、被推薦者毎に。
ハ 候補者選定	地域毎に最大数の推薦を得た会員より順次本人の承諾を得て、1名を選定する。
- 2) 運営委員

イ 審 査	委員辞任後、2ヶ年以上経過した会員であること。
ロ 集 計	被推薦者毎に。
ハ 候補者選定	最大数の推薦を得た会員より順次、本人の承諾を得て、定期改選時は16名以内、臨時改選時は欠員数を選定する。

第4条 別表1 地域委員選出地域表

地区名	所属範囲
第1地区	札幌市
第2地区	石狩管内
第3地区	後志管内
第4地区	渡島・松山管内
第5地区	日高・胆振管内
第6地区	空知・上川・留萌・宗谷管内
第7地区	網走管内
第8地区	十勝・釧路・根室管内
第9地区	東北地方管内
第10地区	本州地区(東北地方を除く)管内

別表2 運営委員業務担当表

業務名	業務内容	定数
会長	会代表、委員会議長	1
副会長	会長補佐	1
総務	総会開催、会庶務業務	2以内
会計	会計事務	2以内
会誌	編集委員、会誌発行業務	2
だより	だより発行業務	2以内
研究会	研究大会、月例研究会業務	2以内
見学会	遺跡見学会業務	2以内
報告会	遺跡発掘調査報告会業務	2以内

1. 公募期間 2013年4月11日(事務局必着)まで

2. 公募対象外会員

会則及び規則により委員となることの出来ない会員は次のとおりです。この会員の推薦は無効と

なります。

- 地域委員 奈良智法（第5地域）、山谷文人（第6地域）、角達之助（第7地域）
佐藤孝雄（第10地域）
- 運営委員 小杉康、荒山千恵、小針大志、佐藤一志、芝田直人、高倉純、高橋理
広田良成、宗像公司

3. 再任対象会員

現委員のうち、会則および規則により、継続再任が出来る会員は次のとおりです。

- 地域委員 乾芳宏（第3地域）、野村祐一（第4地域）、高橋勇人（第8地域）
関根達人（第9地域）
- 運営委員 青野友哉、内山幸子、大谷敏三

監査委員の改選－監査委員の推薦について－

会則第6条の3の規定に基づき、2013年度から2014年度の「監査委員」を下記のとおり推薦願います。北海道考古学会会員名簿などを参考に、監査委員を同封ハガキまたは同様式に準じた封書にて事務局までご推薦ください。

1. 推薦期間 2013年4月11日（事務局必着）

2. 推薦様式

監査委員の推薦様式は運営委員の推薦様式に準じ、一会員につき2名までの会員を御推薦下さい。

3. 推薦対象外会員

現委員のうち、会則および規定により継続再任が出来ない会員は次のとおりです。この会員の推薦は無効となります。

羽賀憲二

4. 再選対象会員

現委員のうち、会則および規定により継続再任が出来る会員は次のとおりです。

千葉英一

会誌編集委員の改選－編集委員の推薦について－

会則第9条の3および北海道考古学会会誌編集委員会設置要綱（以下「要綱」）2の1の規定に基づき、2013年度から2014年度の「会誌編集委員」を下記のとおり推薦願います。会誌編集委員会は、会員の中から推薦された5名（1号委員）と、運営委員会の会誌担当委員（2号委員）により構成されます。一般会員の中から北海道考古学会会員名簿などを参考に、5名を同封ハガキまたは同様式に準じた封書にて事務局までご推薦ください。

1. 推薦期間 2013年4月11日（事務局必着）

2. 推薦様式

会誌編集委員の推薦様式は、運営委員の推薦様式に応じ、1会員につき5名までの会員を御推薦下さい。なお、委員への委嘱は会長が行います。

北海道考古学会会誌編集委員会設置要綱 （関係部分）

2. 組織

- 1) 編集委員会は、会員の中から推薦された5名（1号委員）と運営委員会の会誌担当委員（2号委員）2名との7名の委員により構成され、北海道考古学会会長が委嘱する。
- 2) 編集委員会に編集委員長および副編集委員長各1名を委員の互選により置く。
- 3) 編集委員の任期は運営委員に準ずる。

3. 推薦対象外会員

現委員のうち、要綱により継続再任が出来ない会員は次のとおりです。この会員の推薦は無効となります。

石川直章、上野秀一、仙庭伸久、守屋豊人

4. 再選対象会員

現委員のうち、会則および規定により継続再任が出来る会員は次のとおりです。

阿部明義

2013年度研究大会

「先史時代の植物利用戦略―栽培植物から見た考古学研究―」

近年における考古学研究は、従来の人工遺物・遺構に関する研究の他に、自然科学などの分野を取り入れた新しいアプローチからの研究も進みつつあります。今回の研究大会では、これら新しい研究分野のうち、栽培植物の研究を取り上げ、今後の課題・展望について考えていきます。

日時：2013年5月11日(土) 10:00～17:20

会場：北海道大学 学術交流会館（札幌市北区北8条西5丁目）

交通：JR札幌駅北口 徒歩7分（北大正門から30mほど入った左手です）

※駐車場はございません。公共の交通機関でお越しください。

日程および内容：

（午前の部）

9:30 開 場・受 付

10:00～10:10 開 会

10:10～11:15 基調講演「栽培植物研究の現状」：山田悟郎氏（元北海道開拓記念館）

11:15～11:45 発表①「フローテーション作業を通して解ってきたこと」

椿坂恭代氏（Project Seeds 考古植物研究会）

<12:45～13:30 北海道考古学会総会>

（午後の部）

13:30～14:15 発表②「圧痕法で探る先史古代の植物栽培と人々の暮らし」 小畑弘己氏（熊本大学）

14:15～15:00 発表③「レプリカ法からみた日本列島東部縄文晩期

～弥生・続縄文文化期の栽培植物利用」 高瀬克範氏（北海道大学）

15:00～15:45 発表④「栽培植物としてのウルシ（仮）」 伊藤由美子氏（青森県立郷土館）

15:55～17:15 全体討論 司会 山田悟郎氏

17:15～17:20 閉 会

※ 発表のタイトルおよび順番は変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※ 資料代として、1,000円（予定）を申し受けます。

※ 研究大会終了後、懇親会を大学構内「きゅら亭」にて行う予定です（17:30～19:30、会費は3,500円）。

2012年度遺跡調査報告会の実施報告

今年度の遺跡調査報告会は、2012年12月22日(土)に、北海道大学学術交流会館にて行われました。2012年に北海道内で行われた発掘調査は55件で、その中から道内各地の縄文時代から近世（アイヌ文化期）までの各時代・時期に及ぶ9件の調査が報告されました。報告された調査は、記録保存のための調査、遺跡の範囲・内容を確認するための分布調査及び学術研究調査と各種別に渡りました。

会場には本会会員の方のみならず、一般市民の方々も多く来場され、考古学への関心の高さと、発掘調査成果を今後とも広く公開していく必要性を改めて感じました。

なお、報告会終了後には恒例の懇親会が催され、会場では、情報交換と交流が行われました。

〔発表遺跡〕①せたな町 都遺跡

②厚真町 朝日遺跡

③根室市 関江谷1 竪穴群

④森町 鷲ノ木遺跡

⑤豊浦町 礼文華遺跡

⑥斜里町 カモイベツ遺跡（事務局による代読）

⑦厚真町 オニキシベ4 遺跡

⑧伊達市 ポンマ遺跡

⑨伊達市 カムイタプコブ下遺跡

2012年度月例研究会の開催報告

2012年度は以下の発表者・題目で月例研究会を実施いたしました。

- 第1回：6月30日(土) 北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟 (W棟) W517教室 15:00～16:20
①寺崎康史氏(今金町教育委員会)「北海道における江戸時代初期の砂金採掘跡と金山跡について」
- 第2回：7月28日(土) 北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟 (W棟) W517教室 15:00～17:00
①大坂拓氏(宮城県教育委員会)「本州東北部弥生社会の変動と北海道」
②大塚宜明氏(明治大学大学院博士課程)「北海道島における旧石器文化のはじまりー不定形石器群の位置づけを通してー」
- 第3回：9月29日(土) 北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟 (W棟) W517教室 15:00～16:30
①三谷智広氏(洞爺湖町教育委員会)「近世アイヌ文化期の貝塚からみる生業構造の検討」
②清水香氏(東京都杉並区内遺跡発掘調査団)「アイヌ文化期の漆椀についてー出土資料を中心としてー」
- 第4回：10月27日(土) 北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟 (W棟) W205教室 15:00～16:30
①深瀬均氏(北海道大学大学院医学研究科人類進化学分野)「日本列島における縄文時代人の体形の地域差とその生態地理学的意義」
②森久大氏(士別市立博物館)「道北の押型文土器について」
- 第5回：11月24日(土) 北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟 (W棟) W517教室 15:00～16:30
①柏木大延氏(札幌市埋蔵文化財センター)「古代東北・北海道における土製支脚の分布から考える集団の移動について」
②荒山千恵氏(いしかり砂丘の風資料館)「漂着ココヤシと土製品」
- 第6回：1月26日(土) 北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟 (W棟) W517教室 15:00～16:20
①坂口隆氏(北海道大学埋蔵文化財調査室)「周堤墓出現の背景を探る」
- 第7回：3月3日(日) 北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟 (W棟) W517教室 15:00～
卒論発表会
①平河内毅氏(札幌国際大学学生)「アイヌ文化期の陶磁器について」
※他二本の発表を予定
- 第8回：3月30日(土) 北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟 (W棟) W517教室 15:00～
①加藤孝幸氏(株式会社アースサイエンス)「剥片石器に多用される珪質頁岩の成因と供給源推定の試み」

北海道考古学会の歩み(5) 北海道考古学会創立の頃の思い出(その1)

野村 崇

昨年の7月下旬の夕方、北海道大学の小杉康氏から電話があった。主旨は、北海道考古学会(以下、学会と略す)が、2013年で設立50周年を迎えるので、学会としても記念事業をする必要がある。そのための特別委員会の委員長になってほしいと言う話であった。自分はその任ではないことを説明したが、結局、引き受けざるを得ない形となった。

たしかに、1963(昭和38)年10月19日、20日に、今の北洋銀行本店の場所にあった旧北海道拓殖銀行本店で開かれた北海道考古学会設立総会・研究発表会には、当時、夕張東高校の社会科教員になって2年余りの私も参加した。「新しい北海道の考古学を、ここから打ち立てるのだ!」という熱気が会場いっぱいに溢れていたのを昨日のここのように想い出す。

いまでは、当時の情況を知る人も少なくなったので、今まで記録されていないことを中心に、若干の思い出などを綴ることとする。

北海道考古学会が誕生するきっかけとなったのは、昭和30年代後半から全国を覆った鉄道・道路・農地・ダム・河川改修など大規模工事の波が北海道に及びはじめたことと関係がある。考古学の基礎となる遺跡の破壊がはじめ関西で、そして関東、東北と全国的に広がって来た時であった。

そう言えば、こんなことがあった。私が考古少年であった頃から表面採集の最適地だった夕張郡長沼町のウレロッチ川左岸遺跡(現在は幌内L遺跡)が1961(昭和36年)の秋からの土取り工事のため無残な姿となった。当時私は大学を出て高校に勤務したばかりだった。急遽、1962(昭和37)年3月の春休みに地元の教育委員会と相談し緊急発掘をすることにした。実働メンバーは、札幌西高校郷土研究部員や



写真1 早春のウレロッチ川左岸遺跡（昭和37年3月）

OBに協力をお願いし、私が発掘担当者となった発掘届を北海道教育委員会を經由して文化財保護委員会に届出た。しばらくして、道教委の担当から電話があった。「発掘届の件で札幌に来てほしい…」という。春休みに入ったので、さっそく私は当時の社会教育係に出向いた。長身でにこやかな眼鏡の青年が対応してくれた。後の文化財行政を取り仕切った山田文明氏である。「野村さん。この発掘届だけでは通すことはできない。これから大場先生のところへ一緒に行きましょう」とのこと。大場利夫先生は、当時、北海道文化財専門員で、発掘届はこの関門を通す必要があったようだ。

木造の教育委員会旧庁舎から、雪どけの泥んこ路を車の泥はねに気をとられつつ、医学部の大場利夫先生の部屋に行った。

私は大場先生と話をするのは、この時が2回目である。前年の卒業論文の作成時に恩師の杉原荘介先生の名刺をもって伺っているので顔見知りではあった。しかし、「大学の考古学専攻課程を出たからと言って、すぐには発掘できない…」ということだった。そうは言っても事態はさしせまっている。ここは、大場先生が一筆書いて、発掘届を上にあげるといふ事が結論だった。

発掘届では苦労したが、その後の調査では遺物包含層がすでに破壊されていた。この遺跡は、「オロシガネ形土製品」（註1）の呼称の発祥の元となった遺跡として今に名を残している。

ともあれ、当時の北海道考古学界は、河野広道・名取武光の戦前からの両巨頭に対し、新しく台頭してきた大場利夫の3大勢力が大渦をまき、さらに藤本英夫・吉崎昌一・佐藤忠雄・千代肇・竹田輝雄・沢四郎ら新興勢力が加わって、その後に出てきた我々世代は、ともすれば大波の中に吞み込まれるような状況の中での北海道考古学会の出発だった。

話をもとに戻す。

北海道考古学会が誕生するきっかけとなったのは、昭和30年代後半から全国を覆ってきた鉄道・道路・農地・ダム・河川改修など大規模土木工事の波が北海道にも及びはじめたことと関係がある。考古学の基本とも言うべき遺跡の破壊が北海道にも及んできたのである。

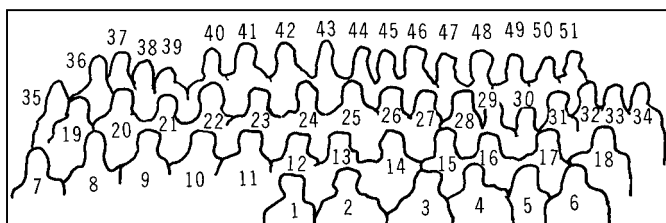
先にあげた私の長沼町ウレロッチ川右岸遺跡破壊の例なども「第2期北海道総合開発計画」による石狩川水系夕張川流域土地改良計画による、夕張川流域約12,000haに及ぶ造田計画のなかでの出来ごとであった。

北海道考古学会結成の要因となった1963（昭和38）年5月26日の北海道教育委員会主催による定山溪温泉「溪泉閣」においての、世に有名な北海道考古学会設立準備会とも言うべき会合には、私は出席していない。…と言うより呼ばれなかったのである。それは当然ながら、当時、遺跡発掘担当者（当時、一般に有資格者と呼ばれていた道内の11名の人たち）であった。松下亘氏（註2）によると、出席者は、大場利夫、武内収太、峰山巖、斉藤武一、藤本英夫、松下亘、千代肇、扇谷昌康、米村哲英、竹田輝雄、沢四郎の11名でいずれも日本考古学協会の会員であった。

本会議の決定により、設立準備委員会が設置され、以後、10月18日まで大場利夫氏を中心に松下亘、竹田輝雄の両氏らが会則案、入会案内などを作成し設立準備のため奔走した。そして10月19日の設立総会を迎えるのである。



写真2 北海道考古学会第2回総会記念写真（於：拓銀円山支店）（昭和39年3月29日）



記念写真参列者氏名（氏名判明者のみ）

7. 本田栄作 9. 溝口稠 10. 武内収太 11. 峰山
 巖 12. 勝井義雄 13. 大場利夫（会長） 14. 藤
 本英夫 17. 佐藤忠雄 18. 千代肇 22. 松下亘
 23. 齊藤武一 24. 野村崇 25. 山崎博信 26. 金
 山哲夫 28. 富水慶一 29. 泉山コト 31. 高橋悦
 郎 32. 出村文理 33. 石川辰也 44. 大沼忠春
 45. 君尹彦 46. 荒木幸也 47. 花渕健一 48. 柳
 館克夫 49. 竹田輝雄 50. 三枝忠司 51. 畑宏明

設立総会では記念写真を写しており、55人が写っている。この写真は、『北海道考古学』第20輯や45輯に掲載されているので、設立総会翌年の1964（昭和39）年3月29日の北海道拓殖銀行円山支店で開催された第2回総会の写真を紹介する。51名が写っており、第1回と同じく詰襟姿やセーラー服の高校生が多いことがわかる。これは当時、札幌南高校や旭川商業高校・小樽緑陵高校郷土研究部が団体加入していたことによる。これらの高校生の中から後の北海道考古界のリーダーが生れていることは説明するまでもない。

創立期の総会会場は、北海道拓殖銀行で開催されることが多かった。これは同行に勤める石川辰也氏の配慮で、資金のない本会のため銀行上層部にかけあって会場費を無料としてくれたという。

1997（平成9）年8月9日付「北海道新聞」朝刊死亡広告に「北海道考古学会会員の方々には、折にふれてご親切なご指導をいただき有難うございました。最後になりましたが、昭和38年拓殖銀行本店会議室における設立総会の熱意が忘れられません」という石川さんの哀切きわまりないメッセージを本会に寄せられていることは、右代啓視さんの追悼文（註3）に述べられる通りである。（続く）

註1 齊藤徳太郎・野村崇「長沼町幌内出土の土製品」『黒耀石』No.14、1959

註2 松下亘「『北海道考古学会』創立のころ」『北海道考古学』第20輯、1984

註3 右代啓視「石川辰也氏を哀悼する」『北海道考古学会だより』No.58、1997

〔追記 写真2の氏名の確認にあたっては、竹田輝雄、佐藤一夫、畑宏明氏のご教示を得た。氏名未記載者については、引き続き探索中であるので、ご教示いただければ幸いである。〕

入退会者のお知らせ

《新入会員》 ※敬称略

上奈穂美（千葉県） 塚田直哉（上ノ国町） 村本周三（斜里町）

《退会者》 ※敬称略

佐藤矩康（北海道 [物故]） 冨水慶一（山形県 [物故]） 村越潔（青森県 [物故]） 山口敏（東京都）

会費納入のお願い

会の運営には、会員の皆様のご協力が不可欠です。会費の年内納入にご協力いただきますようお願い申し上げます。また、本年度を除く過去3年以上の会費が納入されていない会員には、北海道考古学会誌を送付しておりません。会費納入を確認後、送付いたします。

郵便局口座番号：02770-6-8358 加入者名：北海道考古学会
年会費：（一般）5,000円 （学生）3,500円

その他

〔会員通信〕

活用される方に『日本書記巻一～巻三十』（全巻コピー）を差し上げます。希望される方は、090-7511-7243までご連絡下さい。 宮宏明（小樽）

北海道考古学会だより 第105号 2013年2月27日 発行

発行所 北海道考古学会（ホームページ：<http://www.h7.dion.ne.jp/~hokkouko/>）

事務局：〒062-0810 札幌市北区北10条西7丁目

北海道大学大学院文学研究科北方文化論講座 小杉研究室気付

TEL/FAX：(011)706-4000

E-mail：hokkaidokougakkai@auone.jp

印刷 北海道図書企画 (011)668-1131
